



紀の川アグリカレッジ



# \ 2年で稼げるイチゴ農家に! / 紀の川アグリカレッジ

紀の川市の新規就農者向けプログラム



# 紀の川アグリカレッジについて

イチゴ農家として、紀の川市で就農を目指す方を対象とした研修です。農業経営において必要な知識が身につくように設計されたカリキュラムとなっており、修了後も手厚いサポートが受けられます。就農希望者が多く、収益性の高い品目である「イチゴ(まりひめ)」を主とした研修で、稼げる農家になるための実践的な実習研修を行います。

## 紀の川アグリカレッジの特徴

### プロ農家のもとで実践的な農業を学ぶ



紀の川市内のイチゴ農家のもとで、栽培技術が学べます。

### 資金サポート



研修中は、国の資金に加えて和歌山県独自の資金制度もあり、あわせて年間180万円の資金援助が受けられます。(受給には審査があります)

### 農業経験に合わせて2コース(1年/2年)があります。

- 1年コース：農業経験者・親元就農予定者
- 2年コース：農業未経験者

※研修修了時に農地が見つからなかった場合、見つかるまでの間、JAの研修ハウスで働くことが可能です。

### 座学で農業に必要な知識を学ぶ



農業経営に必要な力を座学研修で習得できます。農業の知識だけでなく、財務や事業計画づくりについても学べます。

### 修了後の継続支援



研修中はもちろん、修了後も紀の川市新規就農者受入協議会が主体となって、経営をサポートします。

### 農業に必要な各種資格取得を支援します



フォークリフト、大型特殊免許等の資格取得の機会を提供します。

## カリキュラムについて

農業に必要な4つのチカラ「農業力」「経営力」「地域力」「独立力」を座学研修で習得!

### 農業力

イチゴの基礎知識はもちろん、農業の基礎知識も学べ、独立に必要な農業力が身につく。



カリキュラム例

〔栽培基礎〕  
栽培の基礎知識、農業機械の操作方法

〔イチゴの栽培理論〕  
イチゴ栽培を座学研修や実習で身につける

### 経営力

経営者に必要な経営戦略、財務、マーケティングなどの知識を学ぶ。



カリキュラム例

〔会計・財務〕  
決算書の見方、農業会計の基礎を学ぶ

〔経営基礎〕  
経営に必要な考え方、経営戦略を学ぶ

### 地域力

地域のことを知り、行事に参加することで地域住民と繋がる。



カリキュラム例

〔地域文化〕  
地域の歴史・文化を知る

〔地域活動〕  
地域のイベント・集まりへ参加する

### 独立力

独立に向けた事業計画づくり、土地の取得、資金繰りなど全面サポート。



カリキュラム例

〔事業計画づくり〕  
独立に向けた事業計画のつくり方について学ぶ

〔独立準備〕  
補助金の種類や独立に必要な資材等の確保など

## 紀の川市でイチゴ生産がオススメな理由

**point 01** イチゴ産地の栽培技術が学べる

紀の川市は県内イチゴ生産No.1! 産地で培われた栽培技術が身につきます。

**point 02** 高単価の品種が生産可能

紀の川市で就農し、いちご生産組合に加入すると、和歌山県内でのみ生産が許されている収益性の高い品種を生産できます。

**point 03** 豊富な販売先がある!

JAへの出荷、国内最大級の直売所への出荷、市場への出荷など自身の経営スタイルに合わせて様々な出荷先を選択できます。



## イチゴ農家の経営

イチゴ生産は初年度から売り上げがたち、特別な販路開拓も必要がないため新規就農者にオススメの品目です。

紀の川市は、和歌山県内で最もイチゴの生産が盛んで、実習先では10aあたりの売上が700万円にもなる経営者もいます。

初年度	初期コスト	2,000万円
	規模	15a
	売上	600万円
	所得	162万円

1年目(平均面積15a)

総売上600万円  
所得162万円



規模拡大・技術向上

3年後	規模	20a
	売上	1,140万円
	所得	433万円

3年目(平均面積20a)

総売上1,140万円  
所得433万円

※所得を保証するものではありません。

## 募集要項

研修名	紀の川アグリカレッジ
研修期間	1年：農業経験者・親元就農を目指す農家向け 2年：農業未経験者向け
研修内容	【1年コース】 ・イチゴの栽培技術を習得する実習 【2年コース】 ・新規就農に必要な農業や経験知識に関する座学研修 ・イチゴの栽培技術を習得する実習
実習場所	和歌山県 紀の川市のイチゴ農家
研修対象者	・18～45歳未満 ・研修終了後、紀の川市内で就農する意思がある ※農業次世代人材投資資金を活用する場合には、独立時の年齢が45歳未満であることが条件になります。
募集定員	募集定員 3名
受講料	無料
資金サポート	年間180万円 ※受給には審査があります (農業次世代人材投資資金「準備型」及びわかやま版新規就農者支援事業による給付)

紀のファーム株式会社  
林 真司さん (31)

- 栽培面積 30a (土耕)
- 出身地 紀の川市
- 就農時の年齢 27歳

親元就農してすぐに  
経営承継。  
一番の研修は  
自分でやってみること。



親元就農後すぐに独立

—イチゴ生産を始めたのはいつですか？

農業を始める前はフィリピンに住んでいたのですが、27歳の時、妻の妊娠をきっかけに日本への帰国を決意しました。親がもともと農業をやっていて、「いつかは農業をするだろう」と思っていたので、帰国後すぐに就農することにしました。

親がイチゴを生産していたこと、イチゴは収益性が高く、刃物を使わずに食べられるという理由から、生産品目をイチゴに決めました。

—就農してすぐに経営承継されたのですね。不安はなかったですか？

どうせやるなら独立したい、という気持ちが強かったので不安はなかったですね。雇われるよりも仕組みを作る側になりたいと常々思っていたので、私には農業で独立がびつたりでした。

—栽培技術はどうやって身につけたのですか？

自分自身で手探りで学びました。本やYouTubeから学んで、失敗したらまた違うやり方を試す、ということを繰り返しています。父親もイチゴ栽培をしていましたが、一番の研修は自分でやってみる

農業は生活と密接にかかわる産業。地域との関わりも大事

—農業を行う上で難しいことは何ですか？

農業は他の産業と比較して、地域と密接にかかわってくる仕事です。特に農業に使う「水」などは、みんなで分け合うものなので、地域の方との関係性を大切にしなければなりません。その部分を考えるのは難しいことだと思います。

—林さんにとって農業の魅力はなんですか？

会社員時代は、どれだけ頑張っても自分に返ってくることはなかったのですが、農業経営の場合はやった分だけ返ってくることを魅力に感じています。

—どういう人に来てほしいですか？

経営感覚がある人が来てくれると嬉しいですね。紀の川市のイチゴを生産する人が増えれば、ブランド力が上がるので。

本気で農業をやりたいと思ってる人であれば、是非色々と一緒に挑戦しながら教えてあげたいですね。

ことだと思えます。もちろん、人に聞いて情報収集することもあって、いいと思ったことは積極的に取り入れていきます。

—ハウスの建設には補助金などを活用されましたか？

そうですね。イチゴのハウスについては県の補助事業と紀の川市の事業と2つ使わせてもらいました。面積当たりの補助上限額は決まっていますが、県のほうが経費の3分の1、市のほうが6分の1補助してもらえるので助かりました。

10a当たり4〜5t生産。  
目標は売上1億円

—現在の生産規模と収量はどのくらいですか？

イチゴは土耕栽培で30aほど生産しています。他にブルーベリーやイチジクも生産しています。収量は10a当たり5t程度ですね。私はJAさんには出荷してなくて、関西の高級スーパーやカフェに直接販売しています。

—売り上げの目標はありますか？

現時点では、売上1億円を目標にしています。そのために、経営におけるコスト削減と同質・定量を生み出せるよう生産管理を意識しています。それと、毎年





## イチゴ生産農家 児玉 瑞枝さん (50代)

- 栽培面積 6.5 a (高設・土耕)
- 出身地 紀の川市
- 就農時の年齢 40歳

# イチゴ生産は、 子育てしながら 続けられる。

### 父に助けられながら農業を始めた

— 農業を始めたのはいつですか？

12年前くらいから農業をはじめました。結婚後、子育てに専念していたのですが、子どもが少し大きくなったタイミングで、始めはパートとして、近隣のトマト農家さんのところで働いていました。

父が50年くらい農家をしていたので、その後、他の農家さんではなく実家を手伝うようになりました。

— 実家の手伝いからご自身でされるようになったきっかけは何ですか？

父から「設備をあげるから別でやる」と言われたことがきっかけです。お互いにサポートしあっていましたが、2年前に父が農家を辞めたので自分が中心となってイチゴ生産をするようになりました。今は父が師匠兼、お手伝いをしてくれています(笑)

農地も設備も全て父から受け継いだため、初期費用が掛からなかったのはすごく有難かったです。

— 栽培技術はどうやって身につけたのですか？

基本的には全て父から学びました。父は、新しいことを試すのが好きなので、自分が試してよかったこと、悪かったこ

とを色々教えてくれて助かりました。今回の研修でも、私だけではなく父も一緒に研修生のサポートをする予定です。父は紀の川市のイチゴ農業を若い人に受け継いでほしいと思っていてるので、生活できるようにするまで面倒みてやる」と意気込んでいます(笑)

### イチゴ農家は子育てしながらでも 続けられる

— 児玉さんにとって、イチゴ農家の最大の魅力は何ですか？

一番は、子育てしながら続けられることです。子どもを3人育てながらでも続けることができました。もちろん、父のサポートもあったので続けられた部分も大きいですが、イチゴ生産は夏の間はあまり忙しくないのです、子どもの夏休みに合わせてくれるんですよ。外で働くとなると、なかなかできないことです。

また、単価が高いのも魅力です。10aあれば売上500万円くらいは目指せるので、夏休みがあるうえにしっかりと稼げるのはかなり魅力的だと思います。

— では、イチゴ生産をやっていて難しいと感じることは何ですか？

苗づくりですね。苗さえきちんと作ることでできれば、後はあまり難しいことはあ

りません。8月は気温が高くなるので、苗がしおれませんように」と毎日祈りながら水やりをしています。苗づくりに関しては、毎年試行錯誤していますね。

— 販売に対しては、さほど難しいと感じることはありますか？

そうですね、私は全量JA出荷なので販売に対するハードルは高くはないです。自身で営業をしなくてよいので、すごく助かっています。一部、電話で直接問い合わせしてくれるお客様もいるので個別に販売もしていますが、販売先に困らないのは産地ならではの魅力だと思いますね。

### 農業をしながら生活していくには、 紀の川市はオススメ

— お休みの日は何をして過ごしていますか？

登山が好きなので、近くの山にハイキングに出かけることが多いです。特に、山に生えている花を見るのが好きで、季節ごとに「今日はこの花を見に行こう」といって登山をしたりします。サイクリングやパラグライダーをしている人もたくさん見かけます。アウトドアが好きな人にはおすすめの町ですね。

— 子育てするうえで、紀の川市はどのような町でしょうか？

生活もそうですが、子育てもしやすい町だと思います。スーパーやドラッグストア、病院もたくさんあるので生活で困ることはないです。大阪にも近いので週末遊びに行くこともできますし、紀の川市に住んでいて不便に思ったことは特にないですね。

— 紀の川市で就農検討している方に、ひとことお願いします！

農業するには本当にオススメです。水がきれいでおいしいので、おいしい作物ができますし、聞けばみんな何でも教えてくれます。特にイチゴは売り上げがたちやすいので、農業未経験者の方にもピッタリだと思いますよ。私はJA出荷ですが、直売所や市場に出されている農家さんもあるので、自分に合った販売方法も探せると思います。

農業しながら生活したい、自然が好きだけど都会にも近いほうがいいという方はぜひ一度紀の川市に来てみてください。

(株) ふる一つふあーむわかやま  
田中 啓友さん (45)

- 栽培面積 30a (高設)
- 出身地 紀の川市
- 就農時の年齢 30歳

自分自身の  
意志に従えば、  
自然と不安は  
なくなる。



きっかけは祖父。子どもの好きなイチゴを作ろうと思った

— 農家になろうと思ったきっかけは何ですか？

ずっと農業をやっていた祖父に頼まれたことがきっかけですね。農業を始める前は営業や飲食関係などでサラリーマンをやっていたのですが、「自分の思うようにしたい」という思いも強かったので、農業で独立しようと思いました。就農と同時に独立という形になりましたが、自分で考えて動くことが好きなので、自然と不安はなかったです。

— 生産品目をイチゴに決めた理由は何かですか？

もともと祖父から受け継いで紀の川市の特産品の桃、梨やみかんを作っていたんです。桃は今も作っているのですが、9年前に「自分の子どもが好きな作物を作りたい」と思って、イチゴを作り始めました。

やっぱり身近な人においしいと言われるのは嬉しいですし、子どもはみんなイチゴ好きなので「おいしい」と反応が返ってくるのがモチベーションにつながります。

— イチゴ生産を始める時に補助金などは活用されましたか？

いえ、最初はハウスがあったので活用

る農家さんに連絡して訪問したりして、外部にも積極的に学びに行っています。

紀の川市は新しいことに挑戦する環境がある

— 田中さんにとって紀の川市で農業をする魅力は何ですか？

若い子同士のつながりがあることと、新しいことに挑戦できることですかね。何か聞こうと思えば、すぐに聞ける環境があります。ただし、お互いがお互いのことを気にかけてすぎているので、新しいことに挑戦しやすいです。

イチゴに関していえば、イチゴ部会に入っていて高単価のまりひめを生産することも魅力ですね。販売も、私は市場出荷ですがJA出荷や直売所への販売など選べるのも魅力だと思います。

— なぜ観光農園をはじめられたのでしょうか？ 観光農園に関して、目標があればそれも教えてください。

関西ウォーカーさんに声をかけていただいたのがきっかけとなりました。やってみるとお客さんもたくさん来てくれて、直接「おいしい」と言われるのが嬉しくて本格的に観光農園を始めることにしました。

目標は、2025年までに観光農園にカフェを併設したいと考えています。観

自分自身が楽しみ、  
本気になることが一番大事

— 田中さんの農業へのこだわりを教えてください。

自分が楽しみ、本気で取り組むこと。そうすれば、自然とおいしいものを作ろうと思えますし、おいしいものを作ればお客さんに喜んでもらえる。毎日しんどいは当たり前ですが、その中でできるだけ楽しまないと損だと思っています。

— 研修生にはどのようなことを教えますか？

基本的に自分にできることは何でもやってあげたいと思っています。ハウスも一緒に探してあげたいし、独立して最初の数年は自分のイチゴと一緒に出荷してあげてもいい。ただ、厳しく言うこともあると思います。それは、本気で取り組んでほしいからです。本気でやる人って周りが助けてあげたくありませんよ。本気でイチゴ生産に取り組みたい方には、1から10までサポートしてあげたいです。

しませんでした。ただ、台風の影響で2019年にハウスを建て直した際には農協さんから1.3億円ほど借りました。私は祖父から受け継いだ農地や設備があったので活用しませんでした。新規で始める方はいろいろと補助金等を活用するのがいいと思います。

— イチゴの栽培技術は周囲の農家さんに教わったのですか？

私は県の試験場の方やJAさんに基本的なことを教えてもらいました。その後は、本を読んで自分でいろいろ試してみたり、ネットやSNSを活用して気にな





JA 紀の里  
下田和 敬二さん (58)

● 出身地 紀の川市

## JAの経験と 知見を活かして 全力でサポートしたい。

**農業を志す方のサポートをしたい**  
— JA紀の里では、新規就農希望者に対して、どういったサポートをされているのですか？

イチゴにかかわらず、新規就農を希望される方には経営計画や就農に関する想いをしっかりと確認したうえで、農地の貸し借りのサポートなどを行っています。また、どういった作物を作るのが良いかといった相談や、経営計画づくりや資金繰りのサポートも行っています。

そして、より専門的に農業を学んだうえで定着していただきたいという想いから、品目特化の研修を受け入れるようになりました。

— 品目特化の研修では、どのようなサポートを得られるのでしょうか？

研修修了後に独立できるよう、事業計画、農地探いや横のつながりづくりなど、全面的にサポートします。地域の特産品を作る担い手を育てていくために、トレーニングファームを設けて、実際にイチゴを生産するという研修を受けていただきます。

基本的には農場を管理しているJAの職員や営農指導員が指導します。研修中に地域の農家さんとの繋がりもできるので、独立後に助け合いができるような関係になります。

ます。出荷するときに顔を合わせるので、自然と会話が生まれて情報交換ができます。

あとは、JAが運営している「めつけもん広場」もおすすめてです。県内外から毎日たくさんのお客さんがいらっしやいますね。

あとは、個人で市場や小売店と取引されている方もいます。大阪という消費地に近いのは、紀の川市の強みですね。

### 紀の川市は「便利な田舎」 県外からの応募も大歓迎

— 紀の川市に住んでらっしゃる下田和さんから見ると、紀の川市ってどんなところですか？

一言で言うと、「便利な田舎」ですね。田舎だけど都会も近いし、生活に必要なものは全てそろっています。中学生まで医療費が無料なので、行政のサポートも県内では手厚い方だと思っています。

— 就農を検討している方に、ひとことお願いします！

農業は自然相手の仕事なので、いいことばかりではないです。毎年同じようにすればできるものでもないのです、少し覚悟がいるかと思えます。ただ、それを理解したうえでやはり農業をやりたいと思っていただければ、全力でサポートさせていただきます。

さまざまです。

昔はもっとイチゴ農家さんも多かったのですが、やはり高齢化とともに年々面積も農家戸数も減ってきているのが現状です。イチゴは収益性が高く消費者ニーズも高い品目なので、もう一度紀の川市で盛り上げていこうという想いから、研修に力を入れていきたいと思っています。

— 収量と売上はどのくらいを目指せばよいのでしょうか？

規模によって収量の差はありますし、気候の影響があるので年によっても差が出ていますが、10a当たり3tを指標としています。最低3t/10aは必要だと思っています。もちろん、もっと上を目指してほしいですし、実際に大規模に生産されている方は4〜5tくらいとられていますね。

3t収穫できたとして、1500円/kgで販売すると450万円程度の売上になります。まずはこの最低ラインを目指してもらえればと思います。新規就農で独立される方でも十分目指していただける指標です。

— 紀の川市でイチゴを生産した際の販売先はどこがありますか？

まず、JAに出荷することをオススメします。JA出荷のいいところはJA出荷の農家さんと話す機会が多いところだと思います。

### 紀の川市のイチゴ生産を 盛り上げたい



— 紀の川市のイチゴ農家の特徴を教えてくださいませんか？

和歌山県全体のうち、約4割がこの紀の川市で生産しています。農家軒数は約100軒くらいです。家族経営で小さくやられている方から、40〜50aくらいで大規模にイチゴの生産をされている方も

## 紀の川市ってどんなところ？

清流・紀の川の流域に開ける紀の川市。和歌山県北部に位置し、北は大阪府、西は和歌山市に隣接しています。温暖な気候と紀の川がもたらす豊かな大地を利用した農業が盛んであり、トップブランド「あら川の桃」をはじめ、はっさく、キウイ、柿、いちじく、イチゴなど年間を通して四季折々のフルーツが収穫できる全国有数のフルーツ王国です。

紀の川市

子どもの医療費など子育て支援も充実！

豊富な観光資源

一年中が収穫期のフルーツ王国！

## 紀の川市の生活

### 充実の医療体制



2次救急医療体制を備えた総合病院をはじめ、多くの医療機関が市内にあり、安心して医療の提供を受けることができます。

### 子どもの医療費助成



市内に在住する15歳までの子どもを対象に、入通院にかかる医療費の助成を所得制限なく受けることができます。

### 教育環境



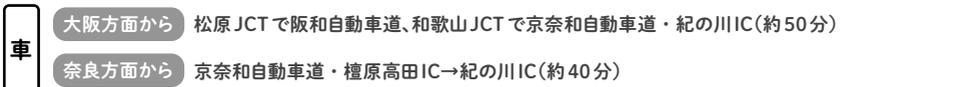
紀の川市には、保育所が11か所、小学校が16校あります。また、中学校・高等学校・大学も市内にあり、教育環境が整っています。

### 豊富な観光資源



桃源郷の桃の花、ホテル鑑賞、葛城山のハイキングなどの自然だけでなく、有名な「たま駅長」や「いちご電車」などが走る和歌山電鐵の「貴志駅」など観光資源も豊富です。

## 紀の川市へのアクセス



お申込み  
お問合せ

TEL 0736-77-2511

紀の川市新規就農者受入協議会  
(紀の川市役所 農林振興課内)

Mail k080500-001@city.kinokawa.lg.jp

H P https://kinokawa-agri-college.com



紀の川アグリカレッジ

